

胃内視鏡検査について

- 口や鼻から内視鏡（胃カメラ）を挿入して食道・胃・十二指腸を直接観察し、診断を行う検査です。検査中に何か異常が認められたり、疑われた場合に、色素散布して病変を明瞭にして確認したり、組織（病理・顕微鏡）検査のために生検（組織の一部を採取）を行います。検査時間は5～10分程度です（検査前の準備、検査後の経過観察には別途所要時間がかかります）。
- 内視鏡の挿入ルートとして、経口・経鼻の2つのルートがあります。
- 経口内視鏡の場合は嘔吐反射（オエーとなる）を惹起しやすいため、咽頭麻酔の他に、当院では鎮静剤を使用し（意識下鎮静法；ボーっとするぐらいの鎮静）、検査を受ける事ができます（ただし、当院の規則として、鎮静剤に関しては、75歳以上の方や血圧85/45未満の方は使用できません。また、70～75歳未満の方は、鎮静剤使用の場合は付き添いが必要です。）。
- 経鼻内視鏡の場合は、鼻腔を広げるスプレーや麻酔のスプレーを鼻から注入後に鼻から胃カメラを挿入します。人によっては、鼻腔が狭く、挿入できないことがあります。その場合は、経鼻用の細径スコープを用いて経口で検査を行います（鎮静剤は使用しません）。
抗血小板薬や抗凝固薬内服中の方は鼻出血のリスクが高まるため経鼻内視鏡はできません。
- 妊娠中の方、妊娠の可能性のある方、当日の血圧160/110以上の方、体調不良の方、感冒症状などが2週間以内にあった方は検査ができません。

胃内視鏡検査での偶発症

胃内視鏡検査による偶発症は以下のようなことが報告されており、第6回全国調査報告（2008～2012年）によると、その頻度は、経口0.005%、経鼻0.024%（鼻出血が一番多い）です。

- ①スコープによる粘膜障害（出血・裂傷・穿孔）
- ②生検による出血
- ③前処置薬（咽頭麻酔薬や鎮静剤）による副作用：
アレルギー（アナフィラキシーショックなど含む）・注射部の血管炎・呼吸抑制など
- ④経鼻内視鏡の場合は稀に鼻出血
- ⑤検査後の腹痛や咽頭痛

胃内視鏡検査はどのようにして、どこで受けるのでしょうか

●健診・人間ドックの場合

電話対応のみで予約を受け付けています。

予約後、説明書・同意書を郵送します。

当院では、胃内視鏡検査単独でのドックは行っていません。

●保険診療の場合

まずは、当院消化器外来を受診ください。相談の上、検査予約致します。